

[成果情報名] 2008年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約] 山形県において発生から5年目となったコイヘルペスウイルス病は、8～10月までの間に11件確認され、発生件数は前年より1件減となった。発生時期で比較すると前年より初発がほぼ1ヶ月遅れた。発生場所は個人池のみであった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

---

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病(以下KHVD)が確認されてから、本年は5年目となった。2004～2008年の月別発生件数(図1)、発生場所別の発生割合(図2)を示した。
2. 2008年のKHVDの発生はマゴイ及びニシキゴイで前年(12件)より1件減の11件確認された。これまでの発生件数を年別に見ると、2004年-69件、2005年-16件、2006年-3件、2007年-12件となっている(表1)。
3. 発生時期は8月4日から10月31日までの3ヶ月間みられ、前年と比較すると初発がほぼ1ヶ月遅れた。2004～2008年の月別発生件数からは2004～2006年は6月、2007年は7月が初発となっており、年を追う毎に初発が遅れる傾向がある(図1)。
4. 2008年の発生は個人池のみであり、村山地区6件、置賜地区5件であった。村山地区の6件中5件の2水系、置賜地区5件中5件1水系が用水路の水系に沿って発生した。
5. 2004～2008年の発生場所別の発生割合からは、養殖等業者における発生例が2004～2007年まで、天然の湖沼や河川での発生は2004～2006年までとなっている(図2)。
6. 村山地区の2件1水系については近隣にまん延防止措置が不十分な既発生水系がある事例であった。なお、他の発生事例では感染経路が特定出来なかった。
7. 村山地区の発生例1件では、発生する水温とされている20～25℃(特定疾病診断マニュアル病性鑑定指針)を大きく下回る13℃の発生事例であった。

[成果の活用面・留意点]

1. 用水路の水系に沿って発生した事例では、水系内でまん延してから下流における発病報告がなされ、発生源とみられる最上流での発病確定が困難となり、感染経路が特定できない状況となった。このため、水系全体のまん延防止が困難になっている。対策として、流行期前にさらなるまん延防止のための広報活動が望まれる。
2. 依然として感染源となりうる感染耐過魚は広く存在すると想定されるので、発症したり、斃死したコイは速やかに埋却あるいは焼却処分をするなど、決して川や池に捨てることのないよう、基本的な防疫対策を今後とも継続していく必要がある。

[具体的なデータ]

表1 2008年の山形県における月別・発生場所別のKHVD発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	2007年	2006年	2005年	2004年
養殖・加工・釣り堀等業者								2	1	4	6
天然湖沼河川や用水路										1	16
公園や学校等の池や堀								2	1	1	6
個人池			5	5	1		11	8	1	10	41
計			5	5	1		11	12	3	16	69
2007年		4	4	3	1		12				
2006年	1	1	1				3				
2005年	3	6	4	1	2		16				
2004年	12	11	32	9	4	1	69				

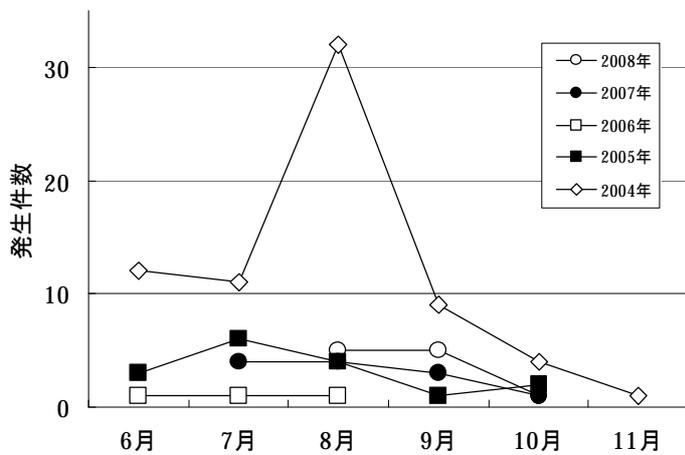


図1 KHVDの月別発生件数

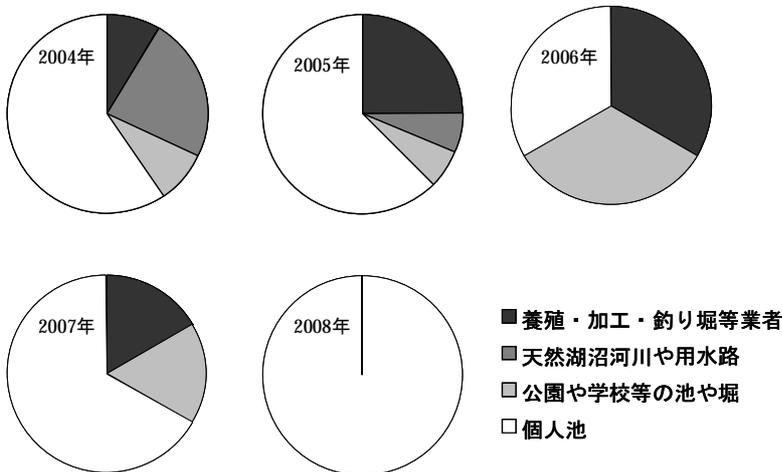


図2 発生場所別のKHVD発生割合

[その他]

研究課題名：KHVまん延防止対策事業

予算区分：国庫

研究期間：平成20年度

研究担当者：鈴木裕之、荒木康男、大川恵子

発表論文等：